

NIIGATA SEIRYO NEWS

2019/4 April

NO.21



『平成30年度 学生表彰式』

CONTENTS

01 CLOSE-UP

- ・平成30年度学生表彰式を開催しました

02 CLOSE-UP

- ・国立青少年教育振興機構・平成30年度法人ボランティア表彰において本学学生が表彰されました

03 TOPICS

- ・本学学生が編集に参加したフリーペーパー『Ricerca』が発刊されました
- ・短期大学部人間総合学科による教科発表(ファッションショー)を開催しました

04 REPORT

- ・平成30年度看護学科卒業生交流会を開催しました
- ・『国境なき医師団』講演会およびボランティアセンター活動報告会を開催しました

05 REPORT

- ・講演会「これからの看護教育に求められるもの」を開催しました
- ・全学講演会「学部将来構想の検討に必要なIRの活用とは」を開催しました

06 REPORT

- ・大学・短期大学部合同企業フェアを開催しました
- ・看護職&介護職の就労支援講習会を開催しました

07 INFORMATION

- ・新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部からのお知らせ

大 短
平成30年度学生表彰式を行いました


2月19日(火)、新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部合同学生表彰式を行いました。第5回となる今回の表彰式では、2団体と3名の学生が対象に選ばれ、関 昭一 学園理事長・短期大学部学長、諫山 正 大学学長からそれぞれ表彰状と記念品が手渡されました。

●団体受賞
**新潟青陵大学
「とまっっ娘」**


代表：佐藤 葵(臨床心理学科2年)

<受賞理由>

新潟市と新潟市周辺14大学・短大でつくる大学連携新潟協議会主催「第5回キャンパスからの提言」事業における最優秀賞受賞

<受賞した感想>

まさか学生表彰までいただけるとは思ってもみず、驚きました。私たちの努力を評価してくれた方々がいたということであり、この賞に恥じないように背筋を伸ばして学生生活を送っていかなければという想いです。活動中はゴールが見えない不安の中、これまでの人生で一番、新潟について考えた時間でした。辛いときもありましたが、今まで知らなかった新潟の一面と農業のことに触れ、心豊かになったと実感しています。今後の学生生活も自分の糧になるよう、積極的に挑戦する姿勢を持ち続けたいと考えています。また、チームメンバーをはじめ協力いただいた皆様にお礼申し上げます。


**新潟青陵大学ボランティアセンター
「災害支援プロジェクトチーム」**


代表：下室 友香(社会福祉学科3年)

※写真は登壇者の

富田麻友(社会福祉学科3年)

<受賞理由>

平成30年7月発生の「平成30年7月豪雨」の支援として、日本ソーシャルワーク教育学校連盟派遣にて、岡山県倉敷市でのボランティア運営に尽力、学外表彰、助成金獲得、活動報告会開催

<受賞した感想>

私たちは募金活動からスタートし、三条市での被災地への資材搬出、岡山県での災害ボランティアセンター運営支援などを行いました。「自分たちにできることは何か」と考えながら行った活動が認められ、うれしく思っています。被災地での活動に向けて、金銭面・宿泊場所・安全面など、ひとつひとつ自分たちでクリアしていったことは貴重な経験となりました。初めて訪れる地域で不安もありましたが、現地の方々の暖かさに支えられ、無事に終えることができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。まだまだ復興が終わったわけではありません。今後も自分たちにできる支援について考え、行動していきたいと思っています。



●個人受賞

藤田 ひまり (社会福祉学科3年)



<受賞理由>

第35回全日本女子学生選抜バスケットボール大会(愛知県)に北信越地区大学代表選手として出場(全国大会出場)

<受賞した感想>

今回の表彰は自分の力のみでいただけるものではなく、監督・コーチのご指導、チームメイトや多くの支えがあったからだと思います。恵まれた環境でバスケットボールができていくことにとても感謝しています。全国大会は初出場だったので不安もありましたが、「自分は北信越の代表、青陵大の代表」という自覚をもち、持てる力を出し切る覚悟で臨みました。いざ全国レベルを体感し、自らの課題を知るとともに、普段は競争相手の選手と一緒にプレーしたことはとても良い刺激になりました。今年はラストシーズンになります。全ての大会や練習が最後になるので、悔いのないよう甘えず全力で過ごしたいと思います。

金井 峻 (社会福祉学科1年)



<受賞理由>

2018年度ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会出場「連弾上級ベスト9賞」受賞

<受賞した感想>

このような賞をいただくことができ、大変嬉しく思っています。ピアノ演奏は、ただ弾くだけではなく、作曲家の意図を理解しつつ自分なりの表現をすることが求められます。そのための練習は楽しくも辛くもあり、辞めたいと思う時もありました。しかし、コンクールでの受賞や今回の表彰なども、続けてきたからこそと思います。指導してくださった先生、支えてくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。大学生になって約1年が経ちますが、自分で決めて生活できる自由と責任に加え、同じ目標に向かう仲間もいて充実感があります。これからも学業はもちろん、ピアノを頑張り、充実した大学生活を送ってまいります。

大矢 千尋 (人間総合学科2年)



<受賞理由>

平成30年度「国立青少年教育振興機構法人ボランティア 理事長表彰」受賞(短期大学部として初受賞)

<受賞した感想>

この度は学生表彰をいただきありがとうございます。私は国立青少年教育振興機構の法人ボランティア制度に参加し、多くのキャンプ運営に携わりました。キャンプに参加した子ども達と一緒に活動するボランティアとの関わり方に難しさを感じることもありましたが、職員さんや先輩に相談し、試行錯誤しながら活動を続けてきました。2年間、自分なりに頑張ってきたことを目に見える形でご評価いただき、とても嬉しいです。自分だけの力ではなく、日々の活動をサポートしてくれる先生方、共に頑張って来た仲間のおかげだと思います。サポートいただいた皆様に感謝申し上げます。

大 短

国立青少年教育振興機構 「法人ボランティア表彰」において本学学生が 表彰されました



2月25日(月)、国立妙高青少年自然の家・国立磐梯青少年交流の家の方々に本学にお越しいただき、「国立青少年教育振興機構 平成30年度法人ボランティア表彰状授与式」が執り行われました。

本学ボランティアセンター所属の学生ボランティアコーディネーター3名(大学生2名、短大生1名)が受賞する運びとなり、国立妙高青少年自然の家所長 星野浩一様、国立磐梯青少年交流の家所長 福士 寛樹様より学生に表彰状が授与されました。

●受賞者

大矢 千尋(人間総合学科2年)

池田 美紀(看護学科4年)

捧 日奈子(看護学科4年)

受賞者の感想

私は看護学科なので専門的なことを学校で学ぶとともに、ボランティア活動を通して、信頼関係の大切さ、子どもの社会で生き抜く力を身に付ける支援について学ぶ事ができました。4月から小児専門病院で働くということもあり、今までの活動で学んだことを生かしながら子どもたちの主体性を引き出せる看護を提供していきたいと考えています。
(看護学科4年 捧日奈子)



大 **短**
本学学生が制作に参加したフリーペーパー「Ricerca(リチェルカ)」が発刊されました


11月3日(土)、長岡造形大学4名と新潟青陵大学・短期大学部17名の学生が共同して制作した「新潟の穴場を伝える」フリーペーパーが発刊されました。

タイトルの「Ricerca」とは、イタリア語で「探検・探索」といった意味があります。昨年4月からワークショップを重ねてコンセプトを立て、食や体験・風景等、学生が自ら発見した新潟の穴場を取材・撮影・執筆しました。

創刊日にはメディアシップで配布イベントが開催され、制作に携わった学生たちが自ら、来場者に説明しながら配布しました。各大学のキャンパス及び新潟日報メディアシップにて配布されていますので、ぜひ手にとってご覧ください。

なお、このフリーペーパーは本学が運営に参加している「4大学メディアキャンパス」の事業として、新潟日报社様、第一印刷所様に全面的にご協力いただき制作されました。この春には次号の発刊に向けたプロジェクトが開始いたします。発刊は秋頃を予定しておりますので楽しみにお待ちください。


短
人間総合学科人間総合コース 第14回教科発表(ファッションショー)を開催しました


12月22日(土)、人間総合コースでファッションを学ぶ2年生による教科発表がANAクラウンプラザホテル新潟において開催されました。実習授業の集大成として例年12月に開催されており、今年度は第14回となります。

主役を務めたのは昨年12月に先輩の教科発表を裏方として手伝い、先輩たちの姿に憧れて「自分もやりたい」と履修してきた2年生たちです。夢を実現させるために学生と共に歩んできた数カ月間。夏季休業を返上して毎日作品に向き合い、就職活動との両立という試練も乗り越え、頑張り抜いた先によりやく迎えた晴れ舞台です。

当日は何よりも幸せに思える出来事がありました。教科発表は人間総合学科に改組する以前に始まり、通算では28回を数えます。今回も後輩の頑張りを楽しみに多くの卒業生が駆けつけてくれました。近年の卒業生だけでなく、中には保護者と見紛うほどの大先輩もいて、皆が在学時と変わらない懐かしい笑顔がたくさん届けてくれたのです。

自己目標が自己実現に到達した喜びは努力の大きさに比例し、充実感や達成感を実感できたことと思います。学生時代にしかできない“ファッションショー”が尊い経験として、主役を務めた学生たちの今後の人生に活かされることを願っています。

人間総合学科 教授 小川 秀子



大

平成30年度看護学科卒業生交流会を開催しました


12月15日(土)、看護学科の卒業生を対象とする交流会を開催しました。今年度は第一部として「女性と子どものためのアクティブ防災*講座」、第二部として「看護学科卒業生交流会」の二部構成で実施され、卒業生とのお子さん、看護学科教員、在校生の総勢32名が参加しました。

第一部の防災講座では、NPO法人MAMA-PLUGの富川 万美 理事を講師に迎え、自然災害に遭われた方々の体験を基に、家庭における防災についてお話いただきました。受講者からは、「防災を人事ではなく自分の事として考える良いきっかけになった」といった感想が多く寄せられました。講演中は保育ボランティアと図書館が子どもたちを預かり、子連れでご来場いただいた卒業生の方々も講座に集中できたようです。

第二部の交流会では、卒業生と在学学生、教員らが一緒にあって、在学中の思い出や近況について語り合い、和やかなひと時を過ごしました。卒業後、看護師・助産師・保健師・養護教諭など、様々な進路を進んだ卒業生から語られる現場での体験談は、在学学生にも非常に良い刺激となっています。

本学では、今後も卒業生のニーズに合わせた講座や、卒業生が互いに交流し、情報交換を行える場を提供していきます。卒業生の皆様のお越しをお待ちしています。

(看護学科卒業生交流支援委員会)



大 短 院

「国境なき医師団」講演会およびボランティアセンター活動報告会を開催しました


1月11日(金)、国境なき医師団に参加し、イラクや南スーダン、ナイジェリアなどで活動されてきた、小児科医・外科医 岩川 真由美先生による講演会を開催しました。

岩川先生からは、国境なき医師団の活動や支援体制、参加の動機、アフリカでの生活について幅広くお話いただきました。岩川先生はとにかく子どもが好きで「救いたい!」との思いから活動に参加。インフラ不足や虫の多さに驚きつつも次第に慣れ、危険な状況でも周囲に迷惑をかけないように常に気を張り、体力維持に努めて活動をやり通したと、現地の体験を言葉豊かに語られました。

「自己の能力の限界を自分で決めず、適度に息抜きをしつつも高い目標に挑戦する姿勢が大事」「日本人の目から見て、現地のやり方や文化が間違っていると感じて、それに理解を示し尊重しなければ信頼関係を築けない」等々の教訓は、海外ボランティアに関心を持つ学生たちに強く響いたようです。

講演終了後は本学ボランティアセンターの活動報告会が開催されました。平成30年7月度豪雨災害ボランティアをはじめとする活動報告の後、発表者の捧 日奈子さん(看護学科4年)による「4年間のボランティア活動を通じて様々な出会いがあり、何気ない日々が特別なものになった。活動を通じて学んだことを世の中に還元していきたい」との力強い言葉で締めくくられました。本学では引き続き学生のボランティア活動を支援し、学生たちの成長を促進してまいります。



大

講演会「これからの看護教育に求められるもの」を開催しました



2月19日(火)、新潟青陵大学青陵ホールにて、聖路加国際大学名誉教授・株式会社井部看護管理研究所代表 井部 俊子 先生を講師にお招きし、「これからの看護教育に求められるもの」と題した講演会を開催しました。

講演会では、井部先生が週刊医学界新聞に連載されている「看護のアジェンダ」をもとに、人の尊厳という視点から看護現場で起こっていること、新時代に即した教育プログラムや看護の価値を再発見する試み、看護界の未来予想と提言について幅広くご講演いただきました。特に講演の締めくくりに、神戸市看護大学初代学長 中西 睦子 先生の著書「異端の看護教育」の一節を引きながら、「現実にある看護とその実践の姿を、誇張なくリアリスティックに捉えて、課題を見出し、自ら変えていこうとする『生意気なナース』たちを育てていかなければならない」との強いメッセージを發されていたことが印象的でした。

当日は学内教職員・学生にとどまらず、学外の看護教育機関、および医療施設の看護関係者が聴講し、質疑応答では活発な意見交換が行なわれました。終了後、先生と直接お話をされたいと集まった方々にも一人ひとり丁寧にご対応いただき、来場された方々にとって得るものの多いひと時となったように思います。

井部先生の穏やか、かつ冷静、そして力強く深いメッセージは、参加者がそれぞれの立場で「看護のアジェンダ(検討課題)」を共有し、看護教育再考の貴重な機会となりました。



大 短 院

全学講演会「学部将来構想の検討に必要なIRの活用とは」を開催しました



3月13日(水)、大正大学学長補佐、エンロールメント・マネジメント研究所所長の福島 真司 先生を講師にお招きし、「学部将来構想の検討に必要なIRの活用とは」と題した教職員向けの講演会を開催しました。

大学における「IR」とはInstitutional Researchの略語であり、60年代のアメリカの大学を起源とする取組です。自校の教育成果をデータで量的・客観的に把握し、改善につなげるための調査活動を意味します。例えば、卒業率・単位取得率・中退率といった数値の推移や、入学者の入試成績と入学後の成績の関連性などを分析することがIRの範疇に含まれます。日本においては、大学全入時代を迎えた00年代以降にIRの必要性が叫ばれるようになり、近年は文部科学省の政策誘導も相まってIRに取り組む大学が急速に増えてきています。

今回の講演会では、以上のようなIRの歴史から日本における拡大の背景、大学の教育成果の可視化と情報公開に対する要請の高まり等々の俯瞰的な話題に始まり、IRと大学経営の関わりと大正大学における実践例についてお話しいただきました。

講演会終了後は、本学においてIRを担当している教職員との情報交換が行われ、本学のIR活動についてアドバイスをいただいたほか、今後の大学間連携に関しても話し合われました。

大正大学では、全学的にIR活動を推進してきたことで、個々の教職員の主観や肌感覚ではなく、データに基づいて入試制度や履修制度を議論する文化が醸成されてきたとのことです。本学においても、各学部の将来構想の策定や2020年大学入試改革への対応に際し、客観的なデータに基づき検討できるよう、IRの充実を図ってまいります。



大 短
「合同企業フェア」を開催しました


2月25日(月)、3月の就職活動解禁に備えての「新潟青陵大学・短期大学部合同企業フェア」を朱鷺メッセにて開催いたしました。今回の参加学生は239名(大学生66名・短大生173名)。例年同様、活気溢れる説明会となりました。

会場には大光銀行・JR東日本・新潟日报社・ブルボン等、県内外の優良企業様、および社会福祉法人様、行政機関等を含む66社が来場され、各社人事ご担当者様より学生たちに向けて熱の入ったご説明をいただきました。

近年の人手不足感に伴い「売り手市場」と言われる昨今、新卒採用は短期集中化が進んでいます。参加学生たちはそのことを意識してか、途中退出も少なく、最後まで熱心に説明を受ける姿が見受けられました。

ご参加いただいた企業・団体の皆様も学生たちとの交流にご満足いただけた様子でした。この合同企業フェアが本学学生の就職に結びつくよう祈念しつつ、今後更なる就職支援に努めてまいります。

◎参加学生数内訳

大学	社会福祉学科	45名
	臨床心理学科	21名
短大	人間総合学科人間総合コース	151名
	人間総合学科介護福祉コース	22名


大 短
看護職&介護職の就労支援講習会を開催しました


本学では文部科学省補助事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一環として、平成27年度より高齢者施設への就労に関する講習会を開催しています。これまでは高齢者ケアに興味・関心のある看護職の方を対象としていましたが、4年目となる今年度は介護職にも対象を拡大し、最新の知識が求められる職場に対応するための「学び直し」の機会としてもご参加いただけるよう、内容を見直しました。

講習会は2月16日・3月2日・3月16日(いずれも土曜日)の全3回開催。初回は「高齢者ケアにおける看護職・介護職の役割」をテーマに、講義およびグループ別の意見交換を行い、後半には認知症ケアとターミナルケアについても学習しました。

第2回のテーマは「“生きる”を支える高齢者ケア」。特別養護老人ホーム黒埼の里より施設長 砂井 一哉氏と看護課長、介護係長をそれぞれお招きし、高齢者施設における看護と介護の実際についてご講義いただきました。後半は施設利用者の気持ちを受け止める「傾聴」の方法を、臨床心理士 橘 玲子氏の講義とグループワークにより学びました。

最終回は「高齢者の生活支援のための技術演習」をテーマとして、短期大学部非常勤講師 近藤 トシコ氏に、移動・移乗の介助とおむつ交換・口腔ケアの技術について指導いただきました。

今回は対象者を広げたことが奏功し、多くの方々より申込みをいただくことができました。講習内容に関しても高評価をいただき、参加者の皆様からはスキルアップの機会として好意的に受け止めていただけたようです。本学では、今後も専門職者向けの学習機会を提供してまいりますので、皆様のご職業と関連するものがあればぜひご参加ください。

新学長就任のお知らせ



新潟青陵大学では、2011年より学長を務めた諫山 正に代わり、2019年4月1日よりリボウィッツ よし子(青森県立保健大学 名誉教授、協和発酵キリン社 外取締役)が新学長に就任しました。任期は2023年3月31日までの4年間で。

公開講座のご案内

だれもが避けて通ることのできない「いのちの始まりと終わり」という視点から、全2回の公開講座を開講します。普段の日常ではしっかり向き合うことも少ない「生と死」について、この機会に考えてみませんか。

■第1回「いのちの授業

～生まれるいのち、つながるいのち、
考えてみよういのちのこと～

日時 7月13日(土) 13時-16時

講師 池田 かよ子(看護学科教授)

一人ひとりのいのちは尊厳と愛情をかけて大切に育まれた歴史をもっています。妊娠と出産の過程を含めた「誕生」という視点から自分や家族、友人のいのちを見つめなおし、いのちを育むことの大切さについて一緒に考えてみたいと思います。

■第2回「生と死～どのように生きて

どのように死を迎える?～

日時 8月3日(土) 13時-16時

講師 森 扶由彦(社会福祉学科教授)

私たちは誰もが老いていき、やがては死を迎えます。私たちにとって、生や死はどのような意味があるか。また、大切なパートナーを亡くしたとき、私た

ちにはどのような影響があるか。生きる事・死ぬ事の意味と、これからの生き方を考えてみませんか。

受講料 各回1,000円

申込・お問合せ

4大学メディアキャンパス 公開講座担当

TEL/025-278-3875

E-MAIL/ex@n-seiryu.ac.jp

※上記窓口にご連絡いただくか、以下のQRコードを携帯電話で読み取り、Webページからお申し込みください。

図書館共催講座のご案内

「新潟子どもの本を読む会」と図書館の共催講座を以下の通り開催いたします。子どもと子どもの文学に関心のある方のご参加をお待ちしております。

■共催講座「絵本の世界を旅する」(全5回)

日時 5月12日・6月9日・7月14日・10月13日
11月10日 全て日曜・13時-16時開催

受講料：5,000円(5回分)

講師：眞壁 伍郎 先生(新潟大学名誉教授)

子どもたちによいものを与えようと、昔から大人たちはよい絵本づくりに励んできました。この講座では、その歴史にあわせ、世界のすぐれたお話や絵本に皆さんにじかに出会っていただきたいと思ひます。

申込・お問合せ

新潟青陵大学・短期大学部図書館

TEL/025-266-9880

※定員がありますので必ず事前申込をお願いいたします



編集後記

NIIGATA SEIRYO NEWS 2019/4 April №21

卒業式を無事終え、今年度も多くの学生を社会に送り出すことができました。今回の記事では、学生の学びの成果発表や、その成果を評価された表彰式の様子などを掲載しております。本学での学びが、学生自身そして地域の役に立てることは大きな喜びです。4月からは、新潟青陵大学に新しい学長が着任いたします。少子高齢化、AI(人工知能)の発達等により看護や福祉、さらには社会全体が大きく変わりつつある今、それらの現場や社会に対応できる有能な人材をこれまで以上に送り出していくための様々な取り組みを新しい体制のもとで進めてまいる所存ですし、地域の皆様にも公開講座や授業の聴講等の形で還元してまいりますので、どうぞ引き続きご指導・ご協力をお願い申し上げます。

(事務局長 栗林 克礼)

公開講座はこちら



〈新潟青陵大学ホームページQRコード〉

facebookで大学・短大の最新情報を発信中!



〈facebook QRコード〉

新潟青陵大学
新潟青陵大学短期大学部

〒951-8121 新潟市中央区水道町1丁目5939番地
Tel : 025-266-0127(代) Fax : 025-267-0053
URL : <http://www.n-seiryu.ac.jp>

[本誌に関するお問い合わせ]

企画課

Tel : 025-266-9550 Fax : 025-267-0053

E-mail : koho@n-seiryu.ac.jp